

利根川水系砂防事務所

Tonegawa River System Sabo Office

2026事業概要



水と緑 豊かな郷土は砂防から

目次

1・利根川上流域の成り立ち

(1) 群馬県の地形・地質	P 1
(2) 利根川の概要	P 2
(3) 浅間山の概要	P 3

2・利根川上流域の主な災害史

(1) 天明3年(1783年)浅間山噴火	P 4
(2) 昭和10年(1935年)烏川災害	P 5
(3) 昭和22年(1947年)カスリーン台風	P 6
(4) 平成3年(1991年)譲原地すべり災害	P 7
(5) 令和元年(2019年)東日本台風	P 8
(6) 災害史と利根川水系砂防事務所の歴史	P 9

3・土砂災害から暮らしを守るために

(1) 砂防事業の取り組み	P 10
(2) 地すべり対策事業の取り組み	P 11
(3) 火山対策の取り組み	P 12

4・利根川上流域の砂防事業

(1) 利根川の直轄砂防	P 13
1) 吾妻川流域の砂防事業	P 14
2) 烏川流域の砂防事業	P 15
3) 片品川流域の砂防事業	P 16
4) 神流川流域の砂防事業	P 17
(2) 浅間山の直轄砂防	P 18

5・砂防事業の効果	P 20
-----------	------

－ 目 次 －

6・インフラDX推進・警戒避難体制強化の推進	
(1) インフラ分野のDX推進の取り組み	
1) UAV施設点検学習会等	P 2 1
2) 浅間山直轄火山砂防事業における無人化施工	P 2 2
(2) 大規模土砂災害を想定した防災訓練	P 2 3
(3) 地区防災計画策定支援	P 2 4
(4) 関係機関・地域住民との合同防災訓練、事業見学会	P 2 5
(5) 譲原防災センターの役割	P 2 6
7・広報・広聴活動	P 2 7
8・砂防施設の紹介（デ・レイケ堰堤）	P 2 8
9・防災教育副読本の紹介	P 2 9
10・ホームページのご案内	P 3 0
11・利根川水系砂防事務所のご案内	P 3 1
12・令和8年度予算の概要	P 3 2
13・令和8年度主な事業実施予定箇所	P 3 3

(1) 群馬県の地形・地質



■群馬県の地質

全国111活火山のうち
5活火山が存在



浅間火山火砕流堆積物	塩基性深成岩類
軽石流堆積物	礫、砂、粘土、腐植土
火山噴出物	変成岩類
安山岩類	洪積統
石英安山岩質凝灰岩	第三系
斜長流紋岩	山中部溝帯
酸性深成岩類	古生代
土礫、砂、関東ローム	中生代
変朽安山岩	

地形・地質の特徴

- ◆ 県土の約80%を山地丘陵地が占めています。
- ◆ 浅間山・草津白根山を始めとする活火山があり、その火山噴出物からなる地質は脆弱なものとなっています。
- ◆ 南西部の神流川流域の地質は多くの断層や破碎作用によってもろい地質となっています。

(2) 利根川の概要



利根川流域図

● 利根川水系砂防事務所 ■■■ 新幹線 □ 高速自動車道

■ 利根川は群馬県利根郡みなかみ町の大水上山に源を発し、関東平野を貫流して千葉県銚子市で太平洋に注ぐ、流域面積16,840km²・流路延長322Kmの我が国で最大の流域面積を誇る河川です。その流域は、群馬・埼玉・栃木・茨城・千葉・東京の1都5県に跨がっています。

■ 利根川は流域内に首都圏の大都市と広大な関東平野を抱え、古くから農業用水や舟運路として利用され、また、首都圏の都市用水の水源地にもなっています。

■ 利根川は我が国の政治・経済・文化の中心を潤し、支える河川として重要な役割を担っています。豪雨などにより上流山地で崩壊が発生し、大量の土砂が流出すると中下流部において土砂の堆積による河床の上昇に伴う破堤やはん濫を引き起こし、甚大な被害をもたらすことが危惧されます。

(3) 浅間山の概要



群馬県側からみた浅間山

過去の噴火



1973年2月の中規模噴火に伴う火砕流



2004年9月の噴火（中規模な噴火）

- 浅間山は、群馬・長野県境に位置する活火山で、山麓は避暑地として古くから開発が進められ、別荘やリゾート施設が分布しています。また、周辺には国道(18,146号)、鉄道(北陸新幹線)、高速道路(上信越自動車道)などの主要交通網が整備されています。
- 有史以降数多くの噴火記録があり、甚大な被害が発生しています。天明3年(1783)の大噴火では、火砕流に伴う泥流の発生により、山麓のみならず利根川流域に大きな被害をもたらしました。
- 浅間山が噴火した場合、群馬・長野両県のみならず首都圏の経済活動にも甚大な影響を及ぼす恐れがあります。

(1) 天明3年(1783年) 浅間山噴火

■天明3年、4月から7月初旬(旧暦)まで断続的に活動を続けていた浅間山が、7月8日(旧暦)に大爆発を起こしました。このとき発生した土石なだれにより嬬恋村(旧鎌原村)では一村約150戸が飲み込まれ、483名が死亡、群馬県下では1,400名を越す犠牲者を出しました。

天明3年の浅間山噴火は直後に吾妻川水害を発生させ、さらには3年後の天明6年に利根川流域全体に洪水を引き起こしました。



浅間山夜分大焼之図 (長野県小諸市美斉津洋夫氏所蔵)



噴火により搬送された巨石(浅間石)
(渋川市金島)

災害による被害

死者	1,443名
家屋流出	957戸

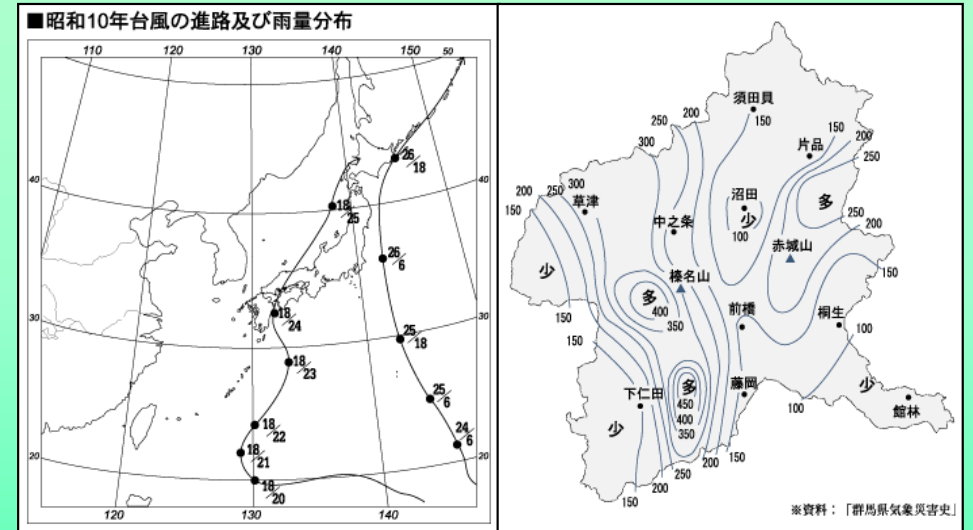
(群馬県下)

(2) 昭和10年(1935年)烏川災害

■昭和10年の災害は、9月24日に四国に上陸して日本海を北北東に進んだ台風と温暖前線によって引き起こされました。前線が停滞し始めた21日から雨が降り続き、台風が前線を刺激した24日朝から26日夕まで豪雨が継続しました。旧倉渕村では総雨量402.5mmを記録し、長雨と短時間の豪雨は、烏川や吾妻川等の流域で約8,000カ所もの山地崩壊を引き起こしました。



昭和10年の被害状況



■昭和10年の台風での被害状況

死者	218名
負傷者	190名
行方不明者	39名
家屋全壊	467戸
家屋流失	859戸
家屋半壊	460戸
床上浸水	4,011戸
床下浸水	13,320戸
	(群馬県下)

※資料：
「群馬県気象災害史
(気象年報・気象要覧433号より)」

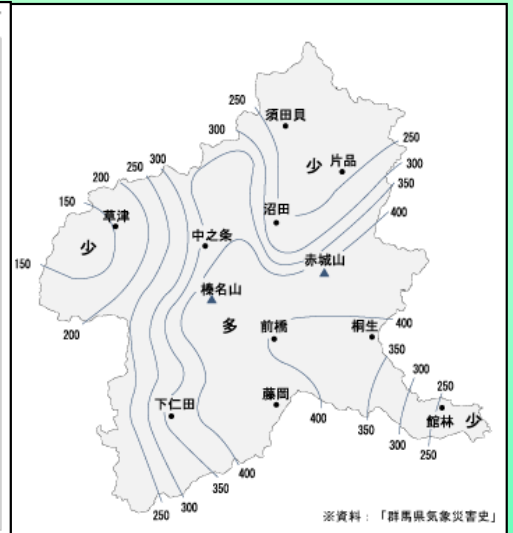
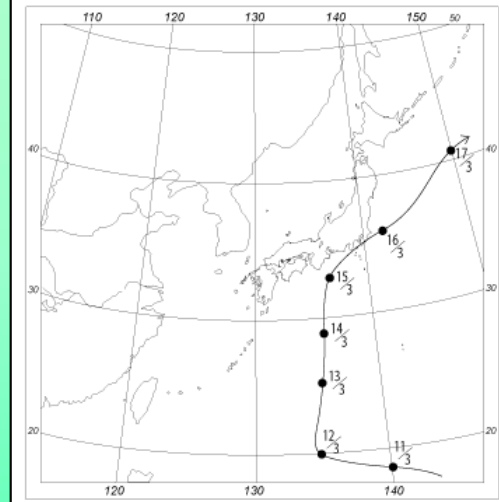
(3) 昭和22年(1947年)カスリーン台風

■昭和22年9月、トラック島付近に発生したカスリーン台風は、房総沖をかすめました。これに刺激された前線が14日から15日にかけて豪雨をもたらし、関東から東北にかけての諸河川では未曾有の大洪水に見舞われました。日雨量440mmを記録した赤城山を中心に5,500カ所に及ぶ山地崩壊が発生し山頂を中心に、放射状に走る多くの溪谷で土石流が発生し、甚大な被害を受けました。



昭和22年カスリーン台風による沼尾川の被害(群馬県旧赤城村深山)

■昭和22年カスリーン台風の進路及び雨量分布



※資料:「群馬県気象災害史」

■カスリーン台風での被害状況

死者	592名
負傷者	1,231名
行方不明者	107名
家屋全壊	1,936戸
家屋半壊	1,948戸
床上浸水	31,247戸
床下浸水	39,808戸
水田流失	5,063ha
田畑冠水	24,403ha
橋梁流失	336基
鉄道被害	178カ所

(群馬県下)

※資料:

「群馬県気象災害史
(カスリーン台風調査報告)より」

(4) 平成3年(1991年) 讓原地すべり災害

■讓原とその隣接地区は、明治43年、昭和13年、昭和22年に地すべり災害に見舞われ、群馬県によって地すべり防止区域に指定、その後対策が講じられ、活動が沈静化していました。しかし、平成3年の台風による集中豪雨のため地すべり活動が再発、翌年には地すべり活動が激化し、主要地方道路鬼石・中里線(現国道462号)などに亀裂が生じました。



地すべりを横断する農道に見られる亀裂



擁壁の傾き



全面通行止の様子(平成3年10月)



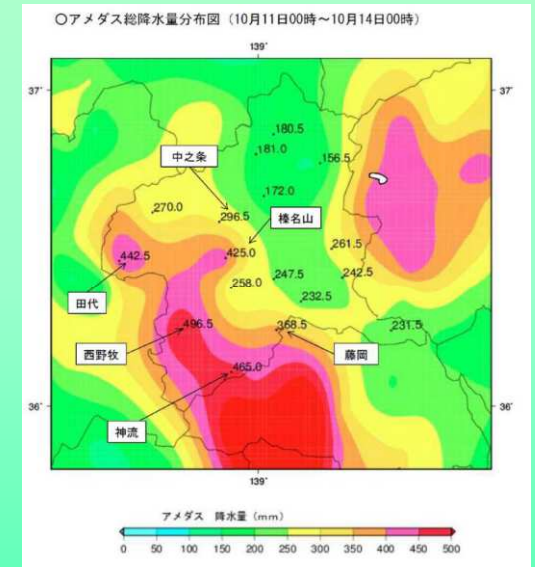
国道462号に発生した亀裂

(5) 令和元年(2019年)東日本台風

■10月6日に南鳥島近海で発生した台風第19号は、大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した後、関東地方を通り、13日未明に東北地方の東海上に抜けました。群馬県内では10月11日午後から台風からの湿った空気の影響で雨が降り始め、12日昼前からは台風本体の雨雲の影響で県内に非常に激しい雨の降る範囲が広がり、県内の雨量観測17地点の内10地点で日降水量が統計開始以来の極値を更新し、広い範囲で河川の氾濫や土砂災害、浸水害が発生しました。



気象庁HPより



婦恋村長井川原(鳴岩橋落橋)



婦恋村大笹

■平成元年東日本台風での被害状況

死者	4名
負傷者	9名
行方不明者	0名
家屋全壊	22戸
家屋半壊	296戸
床上浸水	22戸
床下浸水	112戸
(群馬県下)	

※群馬県危機管理課資料より

(6) 災害史と利根川水系砂防事務所の歴史



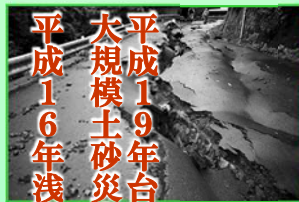
令和元年東日本台風の大雨による災害発生



平成21年浅間山小規模噴火



国土交通省利根砂防（浅間西）



平成19年台風9号の集中豪雨による大規模土砂災害発生



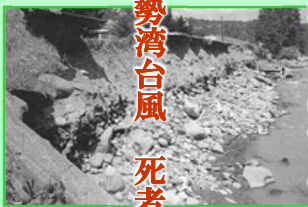
平成16年浅間山中規模噴火



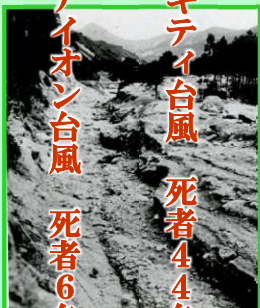
平成3年譲原地すべり災害



昭和56年台風15号による大出水



伊勢湾台風 死者10名



キティ台風 死者44名

アイオン台風 死者6名

台風の影響により吾妻川で大洪水

カスリーン台風利根川随所で堤防決壊群馬県下で死者行方不明者699名



烏川で大洪水群馬県下で死者218名



台風による大災害 死者280名以上

浅間山大噴火 死者1,400名以上

- 2019年 (平成31年) 浅間山出張所移転
- 2012年 (平成24年) 浅間山直轄火山砂防事業着手
- 2011年 (平成23年) 浅間山出張所設置
- 2009年 (平成21年) 万場出張所廃止
- 2008年 (平成20年) 長野原出張所新庁舎完成
- 2007年 (平成19年) 片品出張所新庁舎完成
- 2004年 (平成16年) 利根川水系砂防事務所新庁舎完成
- 1999年 (平成11年) 譲原地すべり対策事業着手
- 1995年 (平成7年) 南郷出張所廃止
- 1984年 (昭和59年) 榛名出張所設置
- 1979年 (昭和54年) 三の倉出張所廃止
- 1961年 (昭和36年) 長野原出張所設置
- 1959年 (昭和34年) 敷島出張所廃止
- 1957年 (昭和32年) 万場出張所設置
- 1956年 (昭和31年) 三の倉出張所設置
- 1950年 (昭和25年) 安中出張所廃止
- 1949年 (昭和24年) 南郷・敷島・片品出張所設置
- 1948年 (昭和23年) 沼田・渋川出張所廃止
- 1947年 (昭和22年) 沼田出張所設置
- 1936年 (昭和11年) 利根川水系砂防工事事務所
- 1935年 (昭和10年) 旧渋川町に移転
- 1910年 (明治43年) 利根川水系砂防工事事務所設置
- 1783年 (天明3年) 渋川出張所・安中出張所設置
- 内務省烏川砂防事務所設置

浅間山出張所移転
 浅間山直轄火山砂防事業着手
 浅間山出張所設置
 万場出張所廃止
 長野原出張所新庁舎完成
 片品出張所新庁舎完成
 利根川水系砂防事務所新庁舎完成
 譲原地すべり対策事業着手
 南郷出張所廃止
 榛名出張所設置
 三の倉出張所廃止
 長野原出張所設置
 敷島出張所廃止
 万場出張所設置
 三の倉出張所設置
 安中出張所廃止
 南郷・敷島・片品出張所設置
 沼田・渋川出張所廃止
 沼田出張所設置
 利根川水系砂防工事事務所
 旧渋川町に移転
 利根川水系砂防工事事務所設置
 渋川出張所・安中出張所設置
 内務省烏川砂防事務所設置

(1) 砂防事業の取り組み

■脆弱で急峻な山々から流れ出てくる河川の下流では、大雨の時に水と一緒に流れ出した土砂で川底が埋まって高くなり、洪水などを引き起こして大きな被害をもたらします。砂防堰堤や床固工などの様々な砂防施設が一体となって土砂の流出を調節することにより、下流の都市に至るまでの流域全体を土砂災害から守ります。

主な取り組み

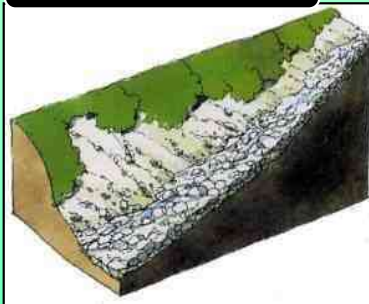
砂防堰堤 (さぼうえんてい)

■砂防堰堤は上流から流れてくる土砂を受け止め貯まった土砂を少しずつ流すことで、下流へ流れていく土砂の量を調整する施設です。



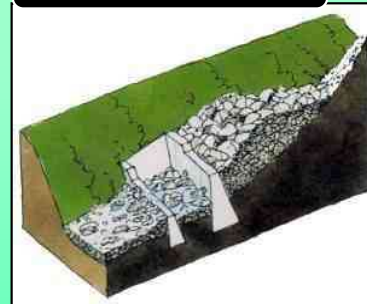
砂防堰堤の効果

砂防堰堤がない場合



砂防堰堤がないと、土砂が下流に流されるため、川の勾配は急なままです。また、急流が川底や川岸を削るため、川岸が崩れやすくなります。

砂防堰堤がある場合



砂防堰堤が土砂を受け止めることにより川の勾配が緩くなると、川の流れが穏やかになるため、川底が削られなくなります。また川岸も削られなくなり山すそが崩れにくくなります。

床固群 (とこがためぐん)

■床固群は、川底の土砂流出をコントロールし、川岸の浸食や崩壊を防ぐため、河川の流れの状況に合わせて複数設置する施設です。



床固工、帯工

水の流れる方向を安定させ川底の土砂が流されるのを防ぎます。(土出床固群)



護岸工

川の流れが岸にぶつかる場所(水衝部)に設置し、川岸が崩れるのを防ぎます。(社家町床固群)



魚道

生態系に配慮し、魚が砂防施設の上下流を行き来できるように整備します。(摺淵床固群)

(2) 地すべり対策事業の取り組み

■群馬県藤岡市の譲原地区地すべりは大規模であることから、平成7年度より国土交通省の直轄事業により、地すべり対策事業に取り組んでいます。

主な取り組み

想定地すべり面積 約100ha
 想定すべり面深度 約40～50m
 想定移動土砂量 約2000万m³



■譲原地区の地すべり対策工は、地すべりの発生原因である地下水の上昇を抑える抑制工を実施し、その後、地すべりを構造物で防ぐ抑止工を実施する計画です。現在、栢ヶ舞上下流地区の抑制工（集水井工、排水トンネル工等）が概成し、下久保地区の集水井工を進めています。

地すべり対策工

抑制工

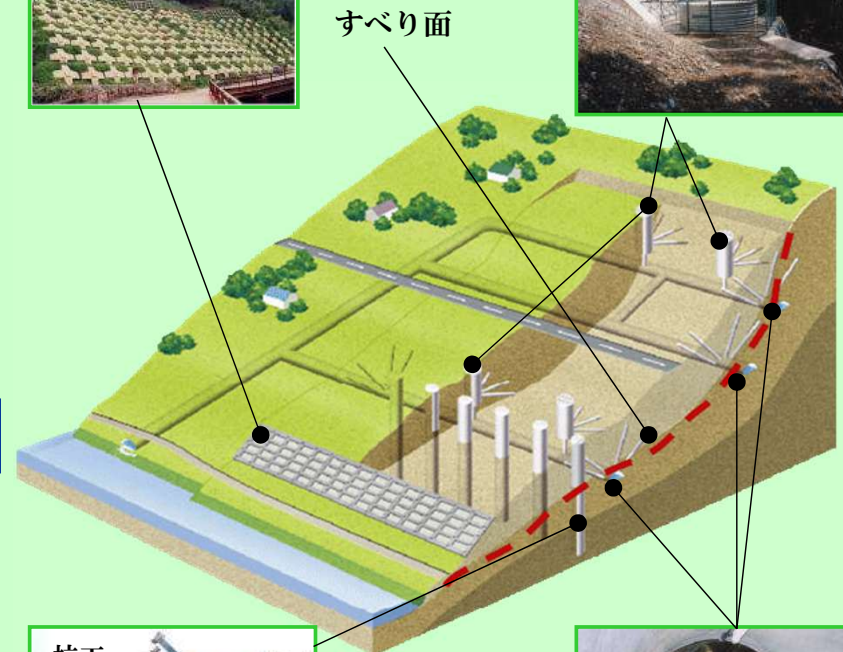
- 集水井工
- 集水ボーリング工
- 排水トンネル工

地すべり発生の引き金となる地下水の上昇を抑える（抑制する）ための工事です。

抑止工

- 深礎工、杭工
- アンカー工

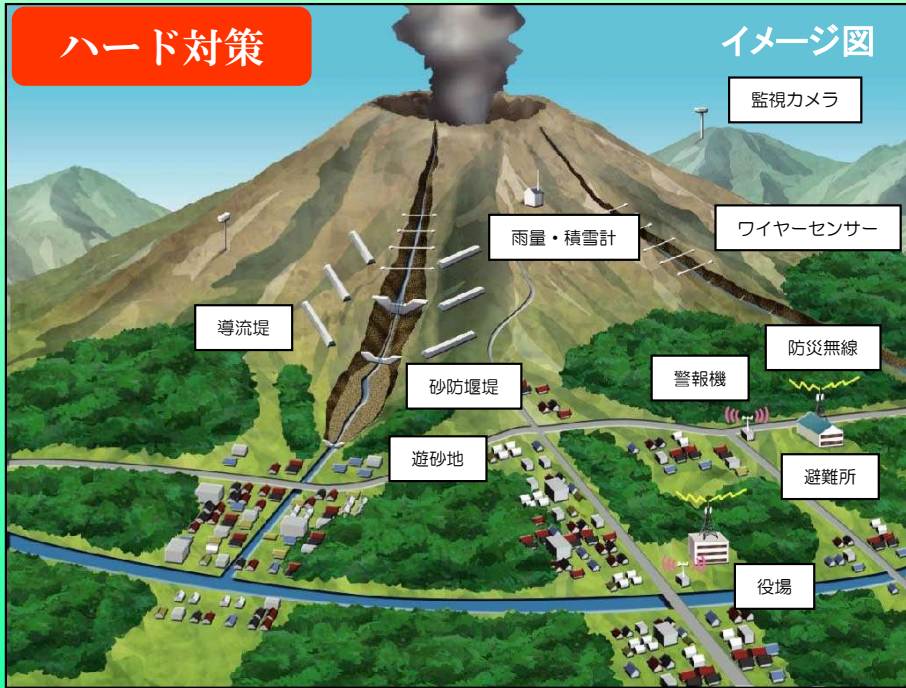
滑ろうとする土のかたまりを構造物で止める（抑止する）ための工事です。



(3) 火山対策の取り組み

- 浅間山は、近年でも平成21年・27年・令和元年に噴火するなど活動的な火山で、噴火による社会的影響が甚大となる恐れがあることから、平成24年度より直轄火山砂防事業に着手しています。
- 草津白根山においては、平成30年に本白根山で噴火が発生するなど活動が活発化していることから、群馬県・長野県・関係市町村などと連携を図りながら、ハード対策とソフト対策を併せた総合的な火山対策の調査・検討を進めています。
- 日光白根山においても、草津白根山同様に関係機関と連携を図りながら、総合的な火山対策の調査検討を進めています。

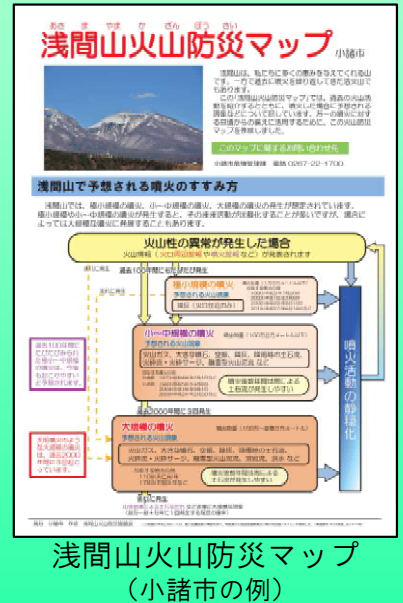
主な取り組み



■ 噴火の際に発生する火山泥流やその後の土石流に対して砂防堰堤・導流堤・遊砂地などの砂防施設などにより、被害を最小限に抑えるための対策について検討を進めています。



■ 火山泥流や土石流などの発生をいち早く知るために、監視カメラ等の観測機器や光ケーブルの整備を推進するとともに、情報収集・伝達システムの強化を図っていきます。この情報を直ちに関係機関に伝えることで、早期の避難対策を行うことができるよう連携を図っています。



浅間山火山防災マップ (小諸市の例)

(1) 利根川の直轄砂防



■直轄砂防事業区域一覧

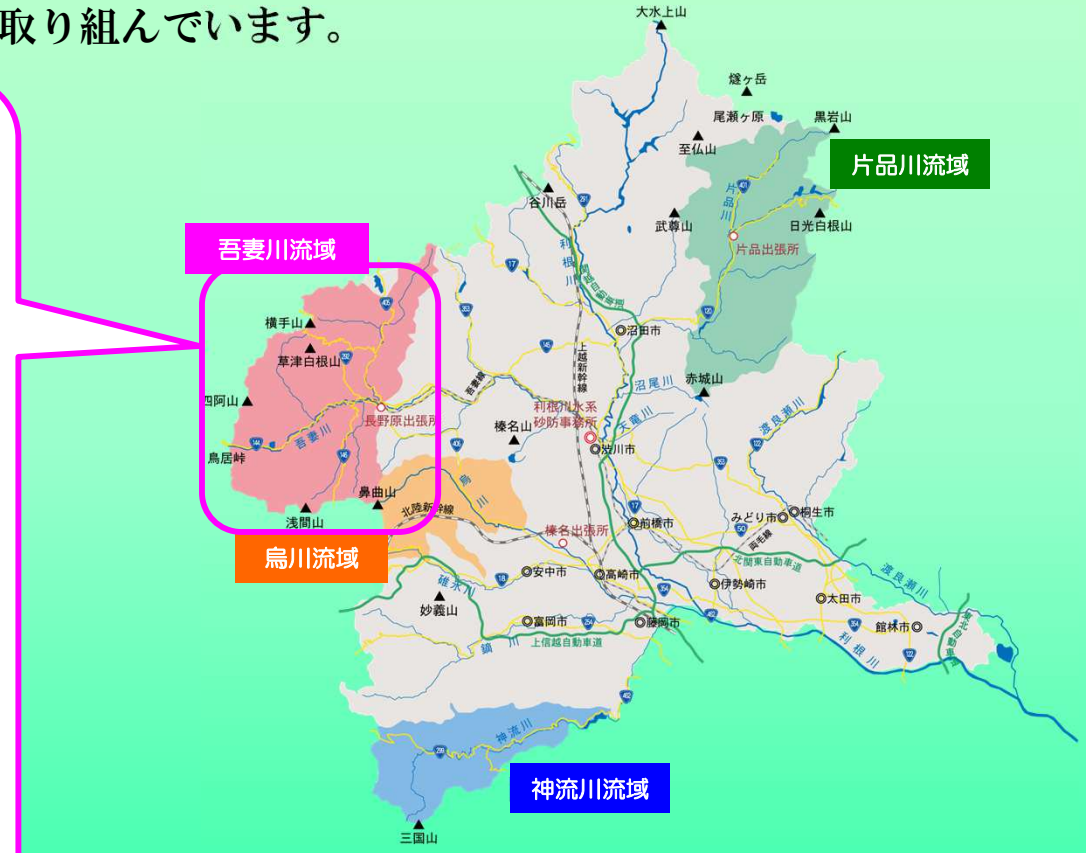
河川名	幹川名	流域面積	着工年度	終了年度
利根川	烏川	253Km ²	昭和11年	施工中
	沼尾川	(45Km ²)	昭和24年	昭和43年
	天竜川			
	片品川	603Km ²	昭和24年	施工中
	神流川	324Km ²	昭和34年	施工中
	吾妻川	689Km ²	昭和36年	施工中

■昭和11年に直轄砂防事業に着手し、現在では利根川の上流支川である片品川・吾妻川・烏川・神流川において、直轄砂防事業を行っています。

■赤城山西麓の沼尾川と天竜川においては、昭和24年に直轄砂防事業に着手し、事業の概成に伴い、昭和40年に沼尾川を、昭和44年に天竜川を群馬県へ移管しています。

1) 吾妻川流域の砂防事業

- 吾妻川流域には浅間山や草津白根山などの火山が連なり、火山噴出物が広範囲にわたって広がっています。
- 火山噴出物の地盤が広く分布しているため、吾妻川本川において床固群の整備を重点的に進めています。
- この地域では浅間山や草津白根山の火山砂防にも取り組んでいます。



振子沢砂防堰堤



大笹床固群

2) 烏川流域の砂防事業

- 烏川流域の地質は角落火山群及び榛名火山の噴出物が、当地域の基盤をなす第三紀層を覆って厚く分布しています。
- 烏川本川において生態系の保全に配慮しつつ、床固群の整備を重点的に進めています。
- 総合的な土砂管理の一環として、透過型砂防堰堤を中心とした整備を進めています。
- 既設砂防堰堤を改良した流木対策を進めています。



上木馬瀬砂防堰堤
(流木止め設置)



内手川第二砂防堰堤



川浦床固群

3) 片品川流域の砂防事業

■片品川流域には、東に奥日光の火山帯が連なり、南には赤城山の火山性の地質が広がっており急峻な地形と脆弱な地質に覆われ、山地の崩壊も進んでいます。

■片品川本川沿いには、越本、老神などの集落があり人家も多く河川沿いの集落を保全するため、床固群の整備を進めています。また、本川上流部及び支川からの土砂流出防止のため、砂防堰堤の整備を進めています。

■既設砂防堰堤を改良した流木対策を進めています。



越本床固群



片品上流第二砂防堰堤



二又上流第二砂防堰堤（改築）

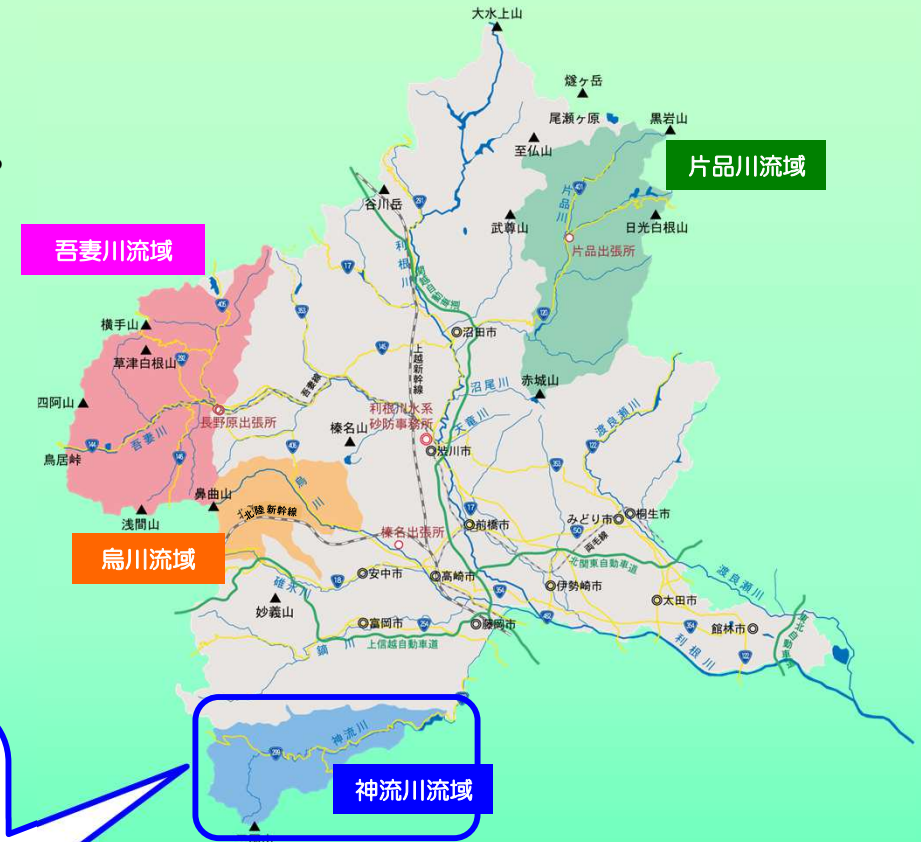


4) 神流川流域の砂防事業

■ 神流川流域は秩父古生層という硬い岩石でできていますが多くの断層や破碎帯があり、複雑な地質構造となっています。このため急峻な地形と脆弱な地質から、大量の土砂が生産され、それに伴い流木も発生しやすい地域です。

■ 神流川本川と急流支川との合流点付近には人家が多く支川に砂防堰堤を設けることにより、本川への土砂流出を防止するとともに、山林から発生する流木による被害を防止しています。

■ 神流川流域の譲原地区では、地質的に脆弱であることに加え豪雨などの影響により地すべり災害がおりやすい地区になっており、地すべりを防ぐための抑制工や抑止工を進めています。



元地川砂防堰堤



譲原アンカー工

(2) 浅间山の直轄砂防

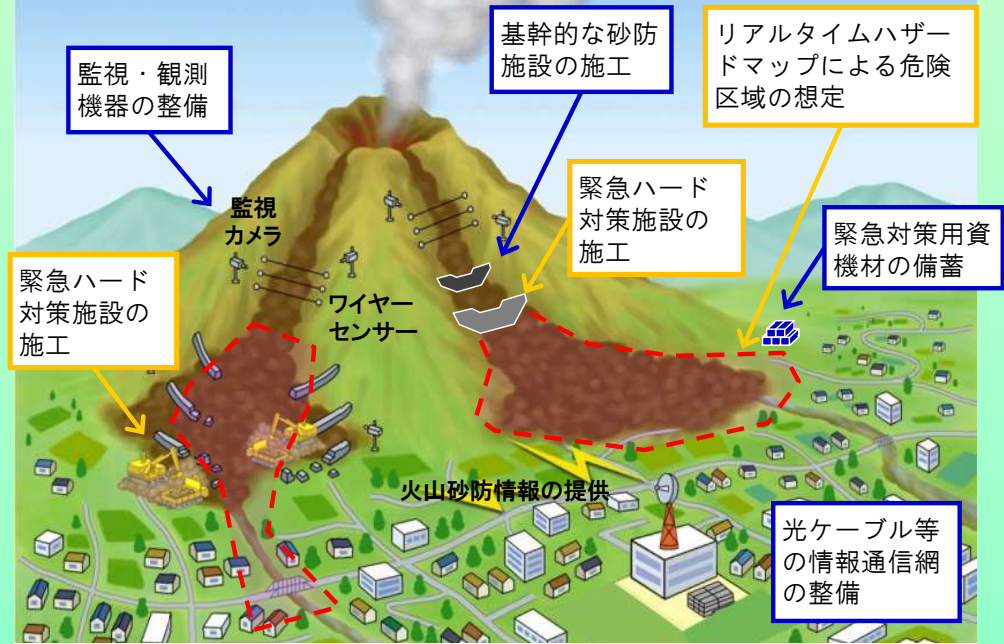
■浅间山の噴火に伴う土砂災害に備え、火山活動の推移に応じた機動的な対策を行う「火山噴火緊急減災対策」を平成24年度より実施しています。

火山噴火緊急減災対策について

噴火活動に応じた機動的な対策を行うため、「平常時」と「緊急時」に分けた施設整備を実施。

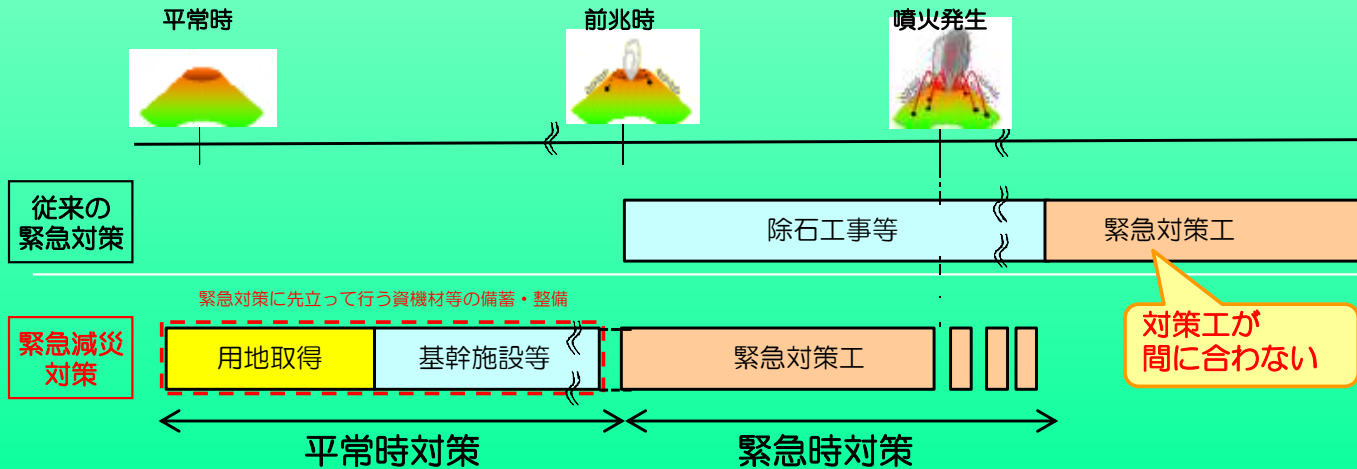
- ・平常時：最低限の基幹的な施設の整備、用地取得等を行います。
- ・緊急時：噴火活動に応じて機動的な工事を緊急的にを行います。

火山噴火緊急減災対策砂防（イメージ）



□ 平常時に実施する噴火対策 □ 噴火時に実施する緊急対策

■緊急減災対策のイメージ



コンクリートブロックを用いた砂防堰堤



遠隔操作による無人化施工

浅間山直轄火山砂防事業

■対象現象

融雪型火山泥流 と 噴火後の土石流

■計画規模

【積雪期】融雪型火山泥流

火砕流：27万m³ 積雪深：50cm

【非積雪期】噴火後の土石流

火砕流：27万m³ 雨量：2年超過確率24時間雨量

※火砕流：1901年以降最大実績（1958年噴火規模）

※積雪深：火砕流到達範囲内の平均標高の平均積雪深

※雨量：平年的な降雨

■事業内容

・堰堤工等（ハード対策）

基本対策：21基（砂防堰堤）

緊急対策：12基（砂防堰堤、導流堤）

・監視・観測機器（ソフト対策）

■事業期間：平成24年度～令和13年度(20ヶ年)

■事業費：約391億円

= 災害発生時の影響 =

想定氾濫内戸数：約5,000戸（※）

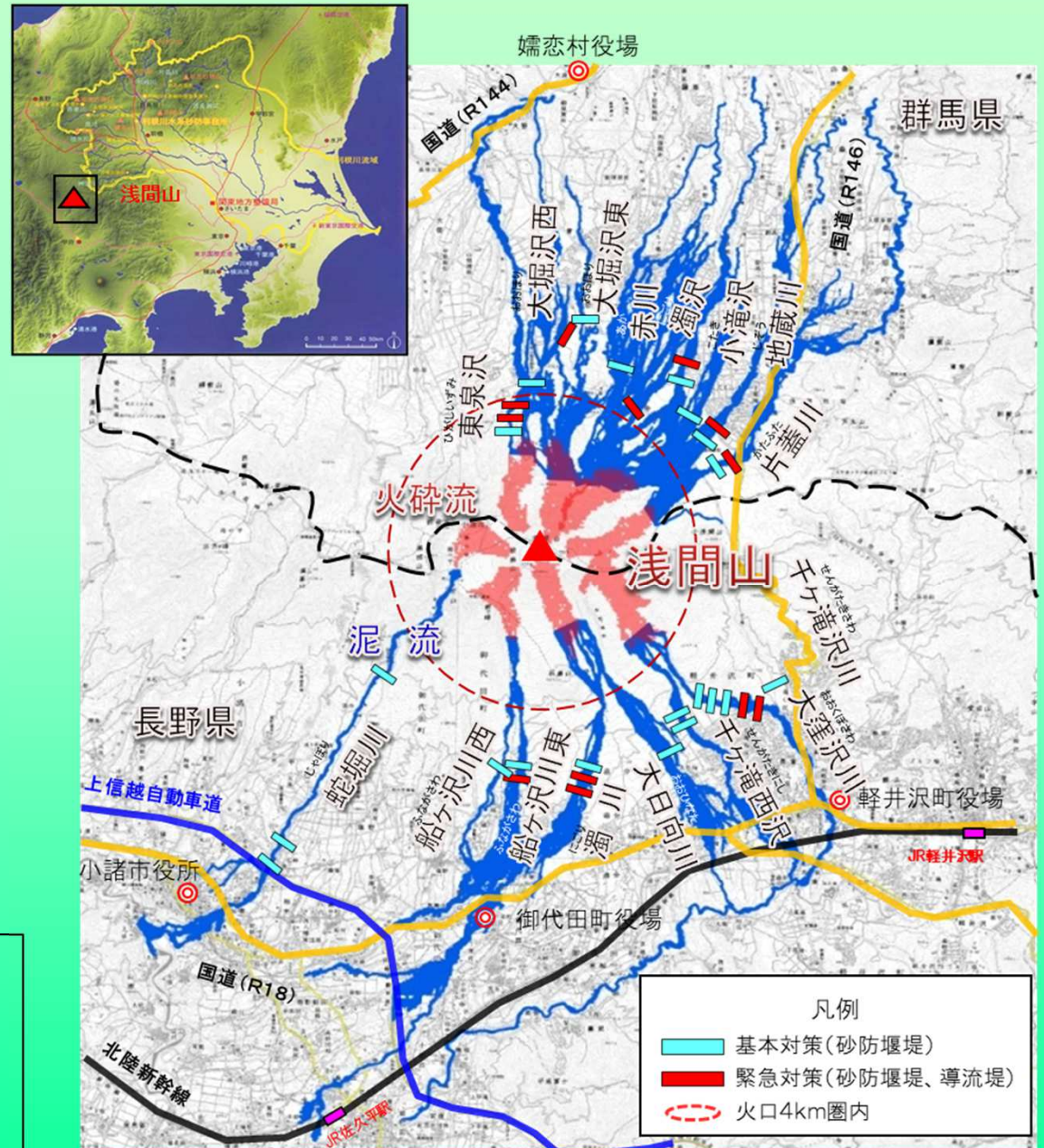
想定氾濫内資産：約700億円（※）

重要交通網：国道（18号,146号）、鉄道（北陸新幹線）、
高速道路（上信越自動車道）等

関係地方自治体：群馬県、長野原町、嬭恋村

長野県、小諸市、佐久市、軽井沢町、御代田町

※中規模噴火発生における想定氾濫エリア内の戸数及び資産。



融雪型火山泥流の被害想定範囲と対策計画図(火砕流27万m³・積雪深0.5m)

※今後の調査・検討により堰堤位置、基数等は変更となる場合があります。

5・砂防事業の効果

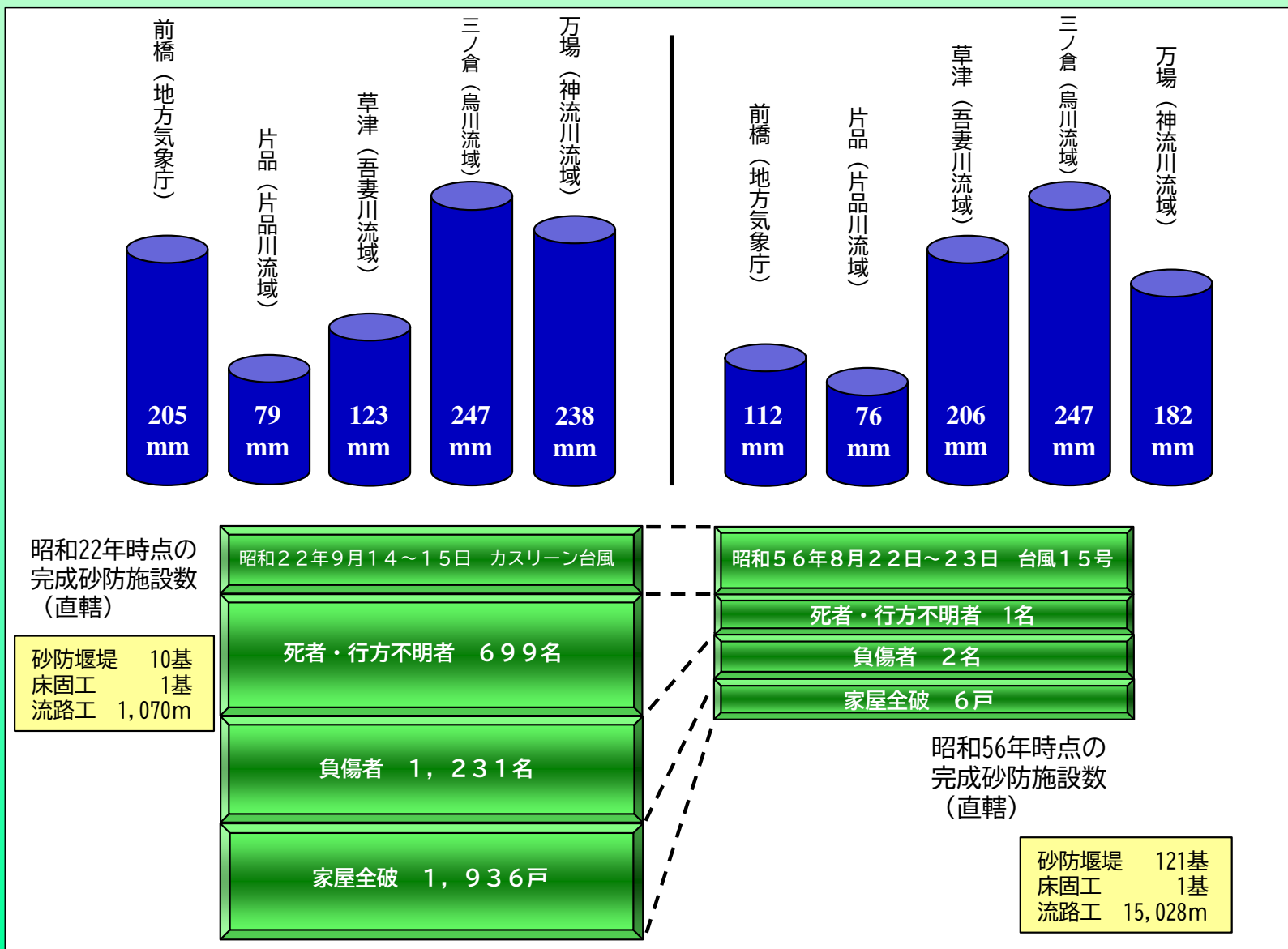
■昭22年9月のカスリーン台風の災害時と同規模の降雨量であった、昭和56年8月の台風15号による災害状況を見ると、死者・負傷者・家屋流出が大幅に減少しました。昭和11年より利根川上流で行ってきた様々な砂防事業の効果が発揮されたといえます。



土砂捕捉前の砂防堰堤



土砂を捕捉した砂防堰堤



6・インフラDX推進、警戒避難体制強化の推進 21/36

(1-1) インフラ分野のDX推進の取り組み

■インフラ分野におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進するため、DXに関する人材育成などを目的に、利根川水系砂防事務所の職員による「DX推進プロジェクトチーム」を発足し、所内における各種講習会などを行っているほか、産・学・官の連携を視野に入れた取り組みも行っています。

UAV施設点検学習会



UAV施設点検学習会

BIM・CIM体験会



設計データの現地投影やVR体験

火山噴火時における降灰厚計測機器等の稼働試験



使用したUAVと降灰厚計測デバイス



稼働試験見学者への説明状況

(1-2) インフラ分野のDX推進の取り組み

■ 浅間山直轄火山砂防事業における無人化施工

- ◆ 浅間山が噴火した場合には、積雪期の融雪型火山泥流や噴火後の降雨による土石流の発生が予想されます。
- ◆ 緊急対策工事では、作業員の安全を確保するため、遠隔操縦式建設機械を使用した無人化施工が想定されます。
- ◆ このため、令和7年度の無人化施工講習会・体験会では、衛星回線を用いて浅間山出張所（操作席）から3.6km離れた濁川第一砂防堰堤にある遠隔操縦式建設機械を操作する無人化施工を行いました。
- ◆ 無人化施工は、遠隔操作式建設機械（バックホウ、キャリアダンプ）にて掘削・運搬を遠隔操作により実施しました。



<職員向け 無人化施工体験会>



<災害協定会社向け 無人化施工講習会>



<体験会・講習会の開催・参加状況>

- ◆ 令和7年10月23日(木)事務所職員、技術エキスパート（砂防・機械・防災部会）向け（25名）操作体験会を開催
- ◆ 令和7年10月24日(金)事務所災害協定会社（23社39名参加）を対象とし無人化施工機械操作講習会を開催

(2) 大規模土砂災害を想定した防災訓練

■大規模土砂災害に伴う天然ダムの形成・決壊による土石流災害等を最小限にとどめるために、大規模な土砂災害が急迫した状況において国・県・市町村が連携し、迅速かつ円滑に対処できる防災対応能力の向上を図るための実践的な訓練が必要であると考え、訓練参加者が各機関の防災対応状況を確認しながら実施できる学習型方式の防災訓練（図上訓練）を平成24年度より行っており、平成30年度には初めて大規模地震を想定した合同防災訓練を実施しました。今後も関係機関との連携強化を目指していきます。

令和7年度訓練会場：群馬県高崎市

10機関35名参加

訓練の概要

訓練方式：学習型防災訓練

基本的な進行

必要に応じて状況付与を行った上で、「進行者」が対応について質問し、これに「訓練参加者」が回答する形式で進行する。このように、逐次対応する形で行うので、実時刻に基づいた進行とはならない。

進行者	演習参加者
<ul style="list-style-type: none"> 「進行者」が想定される状況や検討条件等を付与する。 「進行者」は、その状況で各機関が執られる対応などについて、「演習参加者」に質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「演習参加者」は、質問内容に応じて回答者を決める。 回答者は与えられた質問に対し、自機関の対応をその場で考え、すぐに回答する。

○○で大規模な崩壊が発生し、△△の状態になっています。
 この報告を受けて、あなたの方の組織では、どのような行動をとりますか？
 私たちの組織では、○○を第一に考え、口口を行います。

状況付与 → 質問 → 回答

訓練の内容

訓練ステージの設定

災害発生時の第1報がもたらされて以降の対応を、4つのステージに区分して訓練を進行する。

ステージ1：災害発生時の初動対応

状況：雷雨に伴って土砂災害が発生し、その第一報がもたらされた段階
 ねらい：関係機関間で、災害発生情報の伝達・共有が行われること
 災害発生箇所に対して、初動的な対応とこれに係る連携が図られること

ステージ2：土砂災害防止法に基づく緊急調査

状況：発生した河道閉塞および地すべりに対して、初動調査によって現地の状況を把握できた段階
 ねらい：土砂災害防止法に基づく緊急調査の着手が正しく行われること
 緊急調査の実施と、その結果を踏まえ、機関間の情報共有や、それぞれの役割に応じた対応が行われること

ステージ3：関係機関連絡調整会議の緊急開催

状況：1回目の緊急調査を実施し、土砂災害緊急情報の通知の準備ができた段階
 ねらい：国及び県が土砂災害緊急情報の内容を自治体に的確に説明すること。
 住民避難のために必要な協議が行われること

ステージ4：警戒避難

状況：発生した河道閉塞および地すべりに対して、土砂災害緊急情報の通知・周知がなされた段階
 ねらい：土砂災害緊急情報に基づいて、警戒避難の判断が適切に行われること
 河道閉塞の警戒避難において、他市町村への広域避難が必要となった場合の関係機関調整が行われること

河道閉塞のイメージ



訓練の実施状況



各機関別に配置

各機関の防災対応報告



(3) 地区防災計画策定支援

■自主防災組織からの要請を受け、住民の避難行動の理解を一層推進し、地域防災力の強化を図るため、自主防災組織が行う地区防災計画の作成を支援しています。

【神流町】 地区防災計画策定のための説明会支援



神流町主催の地区代表者への地区防災計画に関する説明会において、説明及びワークショップを支援しました。

【神流町】 防災講習会の運営支援



群馬大学金井教授の協力を得て、防災講習を支援しました

【片品村】 地区防災計画に基づく避難訓練の運営支援



片品村主催の地区防災計画に基づく避難訓練に参加し、運営支援を行いました

(4) 関係機関・地域住民との合同防災訓練、事業見学会

■土砂災害発生時等を想定して、国、県、自治体等が連携し、住民も参加した避難訓練等を実施し、地域の防災力や防災意識の向上に努めています。

【高崎市】榛名山町土石流予警報装置による避難訓練(令和7年6月26日実施)

昭和58年から毎年、群馬県・高崎市・榛名山区が主催し実施している避難訓練を支援しています。

(※令和2～4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止)



■行政機関や住民等を対象に現地見学会を開催し、事業概要を説明した後、工事状況等を見学していただき、地域の防災能力向上に努めています。

浅間山火山の学校(令和7年8月26日実施)

軽井沢町が企画した浅間山火山の学校が開催され、浅間山周辺をめぐり噴火の歴史や防災について学ぶために参加された皆さんに片蓋川第二砂防堰堤を見学いただきました。浅間山直轄火山砂防事業や砂防工法について説明を行い、皆さん熱心に見聞されました。



(5) 讓原防災センターの役割

①防災センターとしての役割

- 讓原防災センターは、藤岡市の指定緊急避難場所となっています。平常時には避難訓練などにも利用されています。
- 讓原地区の地すべり観測データを集積し、情報を発信しています。

②学習施設としての役割

- 讓原周辺の地質(三波石)等から「地すべり災害」の発生原因や過去の災害の発生状況とその対策を学習できます。
- また、集水井や排水トンネルも見学可能です。(標準見学時間2時間)

③令和7年度利用実績

- 利用者数 161名(米国FEMA職員、JICA研修員、埼玉県本庄県土整備事務所、一般企業等)

※見学を希望される方は電話またはメールにより事前申込みをお願いします。

- 予約申込 0279-22-4177
- 住所 群馬県藤岡市讓原1722-1
- 利用可能日 平日
(土日祝日及び年末年始は不可)
- 予約時間 10時～16時



JICA 研修



埼玉県本庄県土整備事務所

「地すべり防止施設点検学習会」



■これまで全国において、地下水や地表水排除工など、数多くの地すべり防止施設が施工されてきました。

毎年、国と都県、さらには研究機関の地すべり担当者による「地すべり防止施設点検学習会」を開催し、地すべりに関する学習や連携を強化しています。

小学生砂防学習会

■毎年6月の土砂災害防止月間に合わせ、防災対策や砂防設備を見て、砂防の重要性とその仕組みを肌で感じてもらうために、管内の小学校と連携し、児童を対象とした砂防学習会を開催しています。

※小学校側との調整により、6月以外にも開催しています。

▶令和7年度 砂防学習会実施状況

担当出張所	学校名	実施日	参加人数
長野原出張所	長野原町立中央小学校	6月30日(月)	21人
	長野原町立浅間小学校	7月1日(火)	18人
	嬭恋村立西部小学校	7月4日(金)	35人
	嬭恋村立東部小学校	9月4日(木)	13人
片品出張所	片品村立片品小学校	6月17日(火)	14人
浅間山出張所	佐久市立東小学校	10月29日(水)	39人
	小諸市立千曲小学校	11月5日(水)	10人



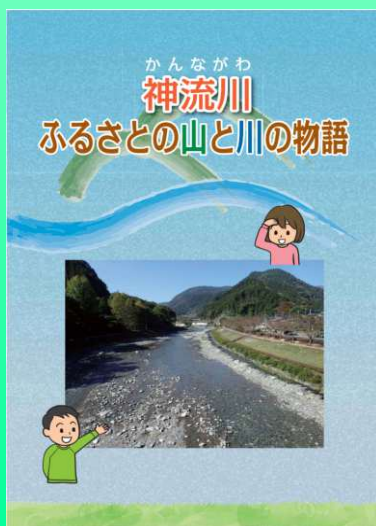
榛名山麓の巨石積み堰堤（デ・レイケ堰堤）を職員が現地調査

- 榛名山麓には明治15（1882）～明治17（1884）年頃に施工された巨石積み堰堤が20基以上現存しています。
- これらはオランダ人技師デ・レイケの指導を受けて内務省が施工したものです。
- 内務省の石井土木局長（明治10年初代局長に就任）は利根川における砂防の必要性を認識していたという記述が、デ・レイケと彼の恩師エッシャーとの手紙に残っています（上林好之（2003））。
- 利根川改修工事の一環として実施された榛名山砂防事業は明治14年度に開始され、明治36年度に砂防設備は内務省から群馬県へ移管されました。



ふるさとの山と川の物語」—4流域分が完成しました！

- 郷土の自然、くらし、防災について知っていただくために制作してきた「ふるさとの山と川の物語」について、このたび烏川編が完成しました。これにより、4流域すべての物語がそろいました。
- 自然・くらし・防災について学べる内容を「防災教育副読本」として取りまとめています。
- 物語の内容は事務所ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。



完成の報告の様子



安中市長へ副読本を手交



安中市長に完成を報告



高崎市教育長へ副読本を手交



高崎市教育長と教育次長に完成を報告

[ホームページアドレスはこちら](https://www.ktr.mlit.go.jp/tonesui/tonesui00716.html)

<https://www.ktr.mlit.go.jp/tonesui/tonesui00716.html>

とねさぼう ふるさとの山と川の物語



利根川水系砂防事務所ホームページ
<https://www.ktr.mlit.go.jp/tonesui/>



■利根川水系砂防事務所では、ホームページで事務所の事業内容や、浅間山・草津白根山の監視映像をリアルタイムで見ることができるなど、砂防に関する様々な情報を提供しています。



入札情報サービス(PPI)は、インターネットを介して全国の公共発注機関の入札情報を検索閲覧ができます。

利根川砂防通信

■砂防・防災など様々な情報を提供していきます。

■工事情報をホームページで発信しています。

公式 X (旧ツイッター)

■事務所の活動状況などの情報を随時、発信しています。

ライブカメラ映像

■浅間山等のライブ映像を見ることができます。

利根SABOモバイル
浅間山・草津白根山のライブカメラ映像を発信中
https://www.ktr.mlit.go.jp/tonesui/tonesui_index005.html

■モバイル端末でライブカメラ映像を見ることができます。



■4流域すべての物語をご覧いただけます。



■利根川水系砂防事務所「事業概要(2026)」の閲覧はこちらから

組織図

事務所長

副所長 (事務)
副所長 (技術)
契約事務管理官
工事品質管理官
地域防災調整官
建設専門官 (事務)
建設専門官 (土木)
建設専門官 (電通)
専門調査官 (事務)
専門調査官 (土木)
建設監督官 (土木)

総務課

経理課

用地課

工務課

調査課

品質確保課

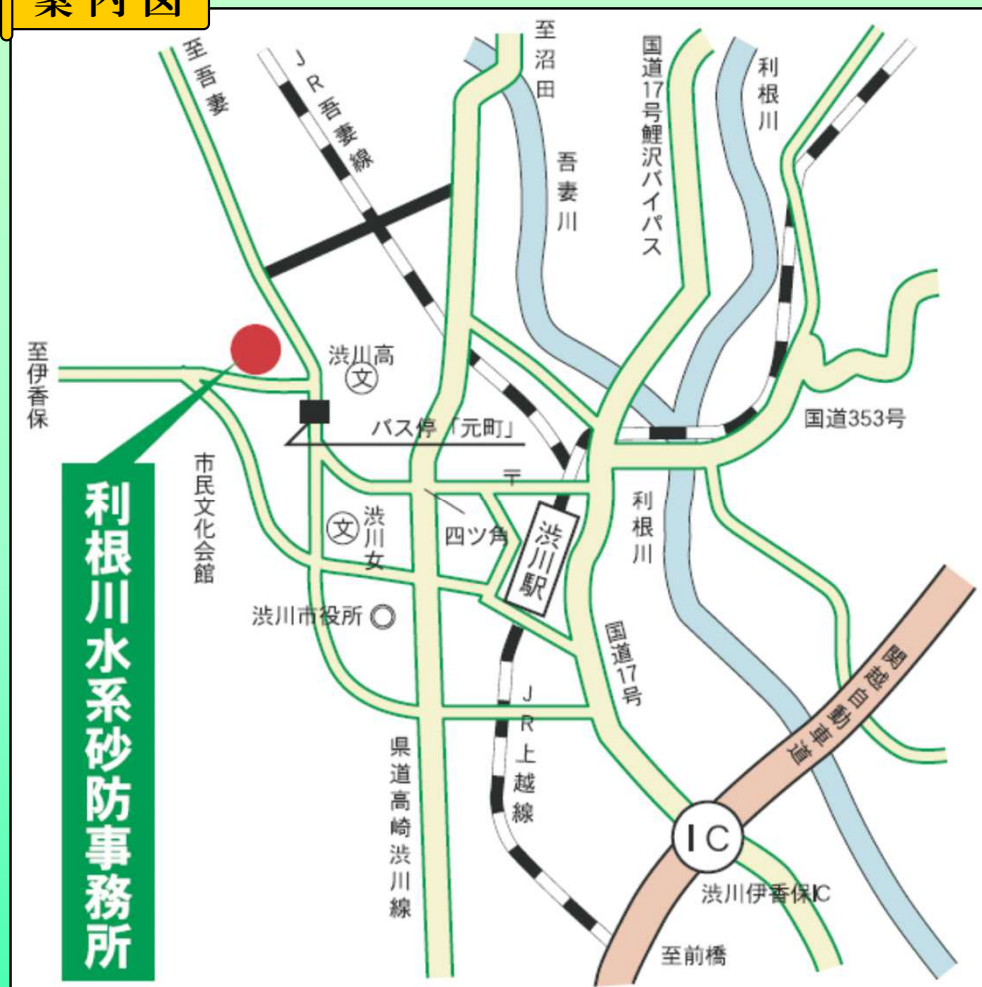
長野原出張所

榛名出張所

片品出張所

浅間山出張所

案内図



国土交通省関東地方整備局
利根川水系砂防事務所

〒377-8566 群馬県渋川市渋川121-1
TEL.0279-22-4177 (代) FAX.0279-23-4791

■砂防事業費

- ・川浦床固群（高崎市）、大笹床固群（嬭恋村）など、事業の進捗を図ります。

■地すべり対策事業費

- ・藤岡市譲原地区における地すべり対策事業は抑止工の進捗を図ります。

■砂防事業費（浅間山）

- ・火山活動を続ける浅間山における火山噴火緊急減災対策を推進します。

単位：百万円

予 算 費 目		令和7年度 事業費（当初）	令和7年度 事業費（補正）	令和8年度 事業費（当初）
砂防事業費		2,625	103	2,625
地すべり対策事業費		330	140	330
砂防事業費（浅間山）	群馬県	380	332	593
	長野県	1,232	50	1,018
	小 計	1,611	382	1,611
合 計		4,566	625	4,566

※端数処理の都合で集計値が合わない場合がある

13・令和8年度 主な実施予定箇所

吾妻川流域



大笹床固群

浅間山

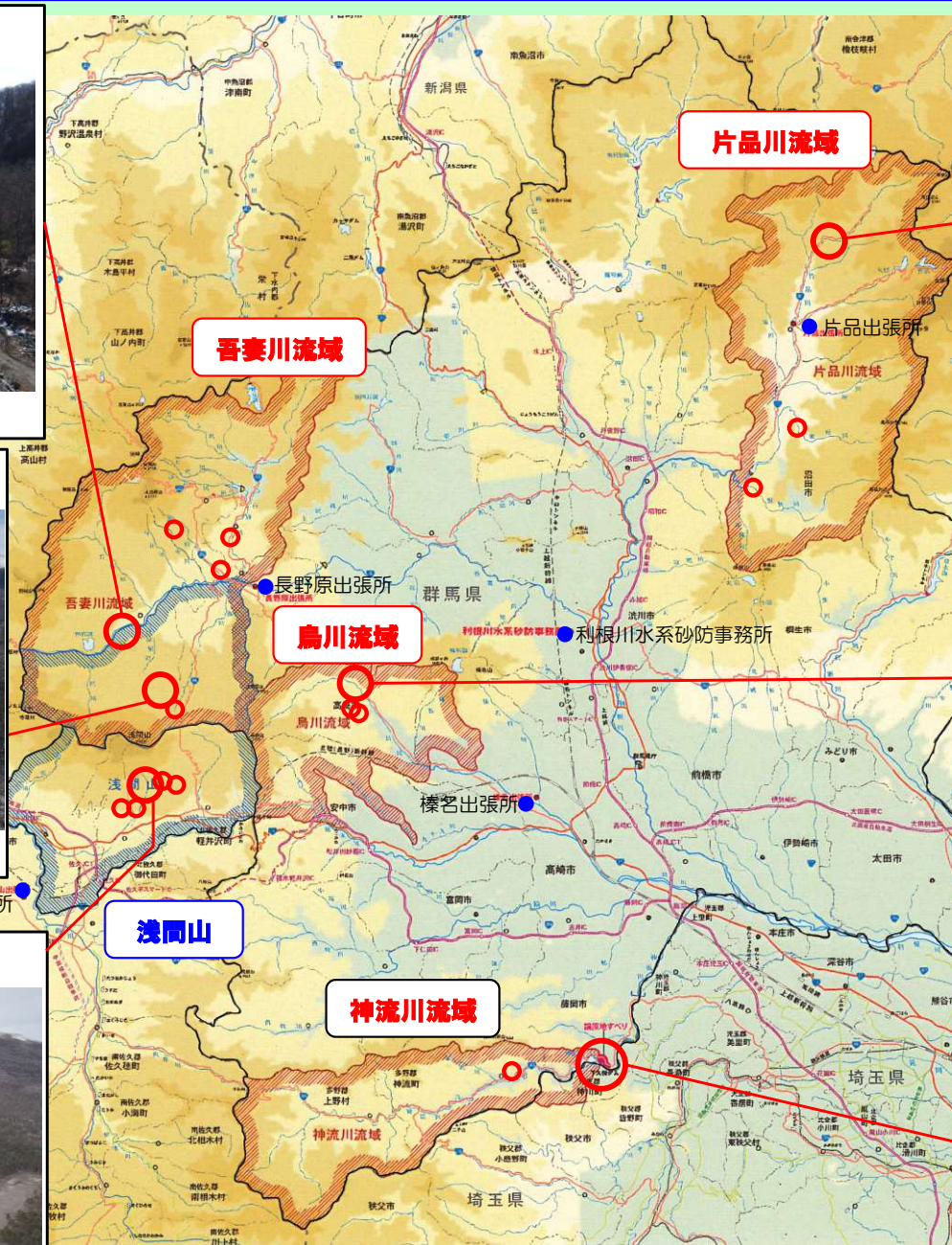


赤川第一砂防堰堤

浅間山



大日向川砂防堰堤



：事業区域



○：事業箇所

片品川流域



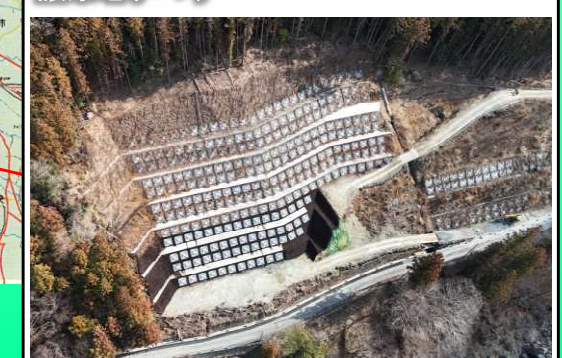
片品上流第二砂防堰堤

鳥川流域

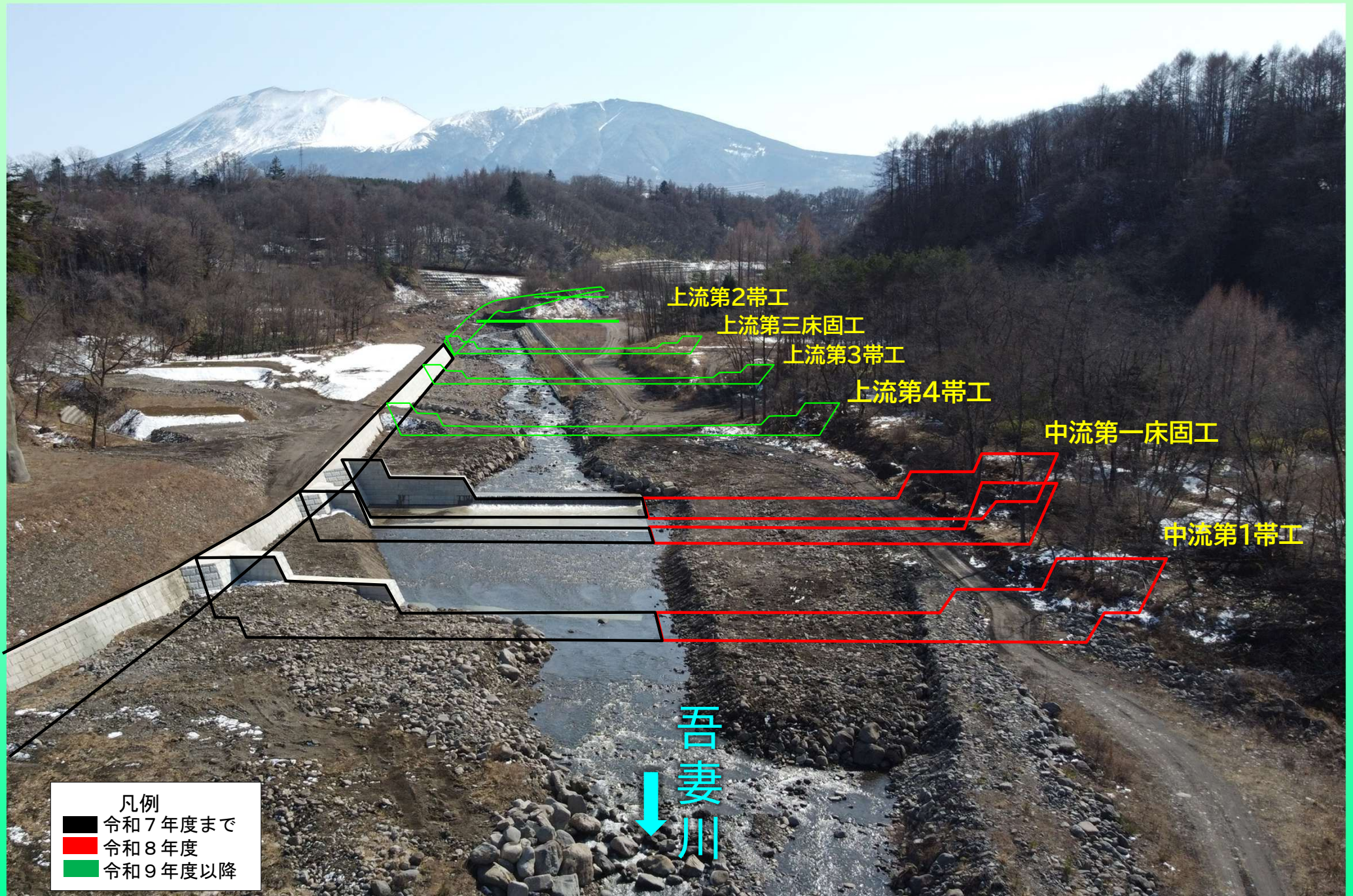


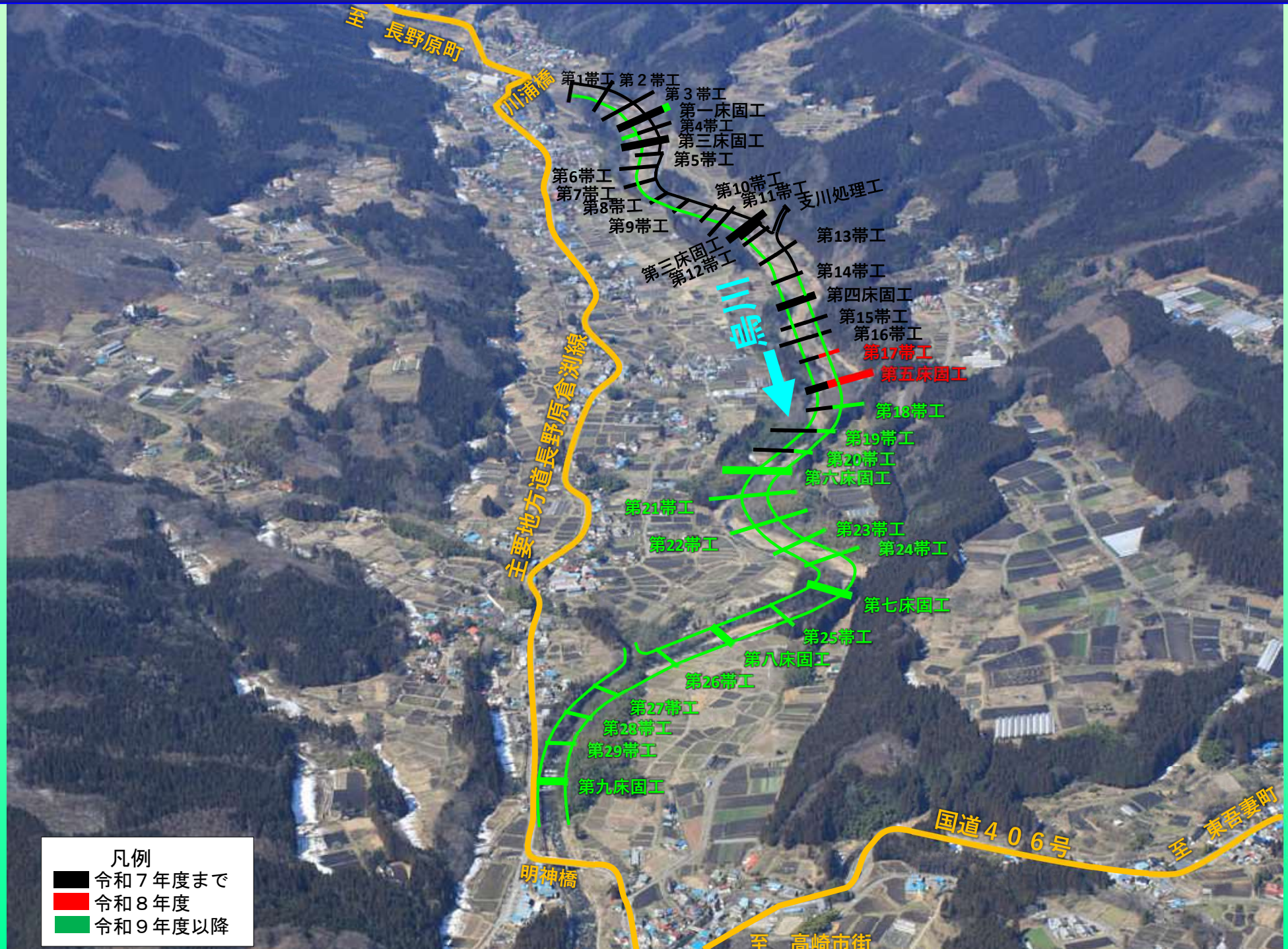
川浦床固群

譲原地すべり

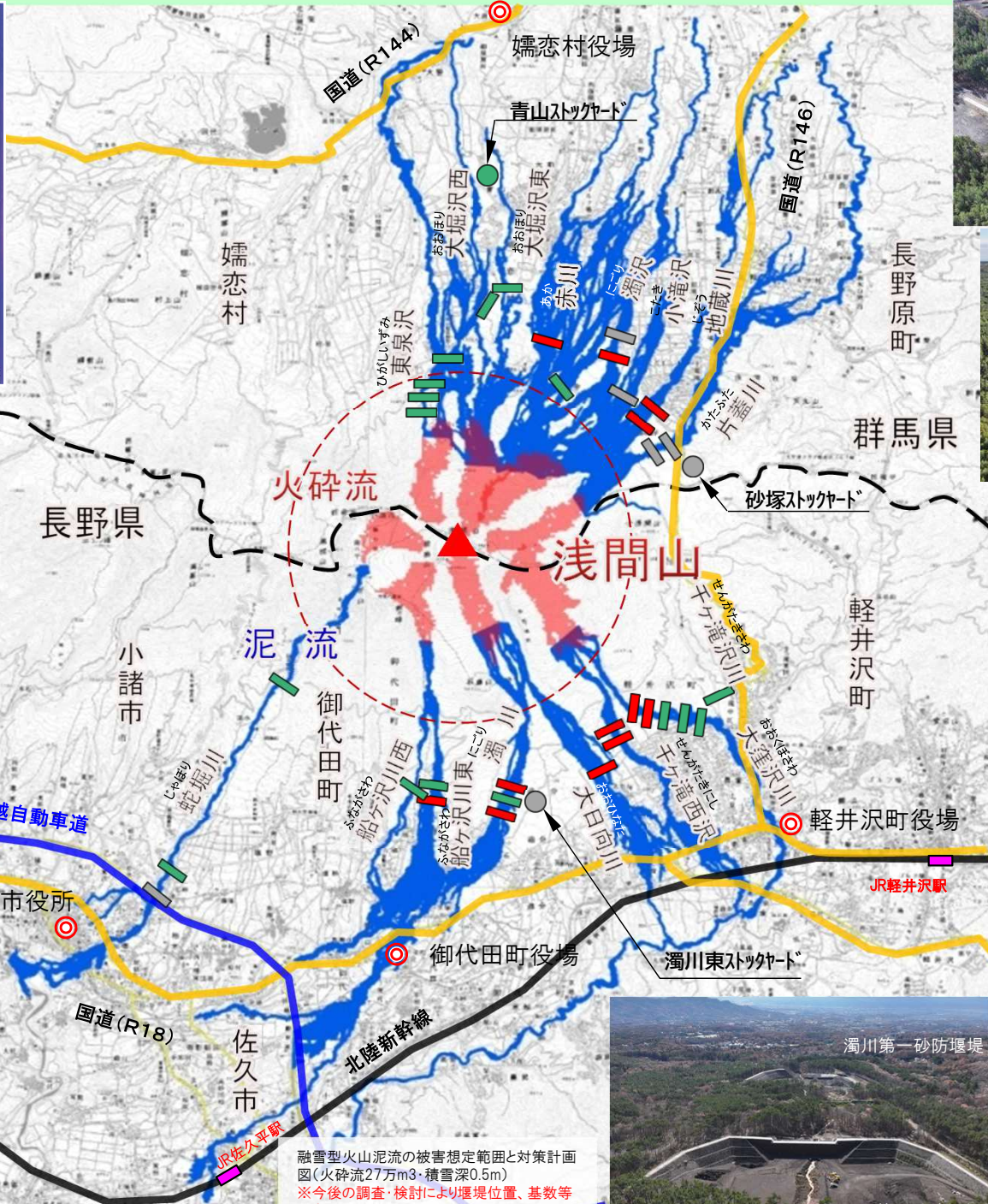


アンカー工





浅間山直轄火山砂防事業 (火山噴火緊急減災対策)



凡例

	完成 (概成)	5基 / 33基
	群馬県側	4基 / 15基
	長野県側	1基 / 18基
	施工中	12基 / 33基
	群馬県側	4基 / 15基
	長野県側	8基 / 18基
	未施工	16基 / 33基
	群馬県側	7基 / 15基
	長野県側	9基 / 18基

※基数にはストックヤードを含まない。



融雪型火山泥流の被害想定範囲と対策計画図(火砕流27万m³・積雪深0.5m)
 ※今後の調査・検討により堰堤位置、基数等は変更となる場合があります。



濁川東ストックヤード

